

第2回酒田港CNP協議会の意見内容(要約版)と対応

資料2

区分	意見内容(要約版)	対応
協議会	計画を策定することが目的となっているように見えるため、この協議会の目的や立ち位置、将来に向けての関わり方を明確にしてほしい。	改正規約第3条、第4条に目的と所掌事項追加して明確にした。
現況排出量	削減目標においては吸収量も踏まえる必要がある。CO2排出量の算出方法を明確にして共有し、削減計画を検討すべき。 酒田の防風林などの緑化事業による吸収量も酒田港の特色として含めてもいいのではないか。	CO2排出量の算出方法を共有する。 既存防風林の他、ブルーカーボン等の吸収量を今後推計し反映する。
燃料関係	水素の導入については、企業の設備投資には限界があるため、県環境エネルギー部が主体となって動いてほしい。	県環境エネルギー部では、令和5年度に予定している「後期エネルギー政策推進プログラム」の見直しにおいて、水素の位置付けを議論することと併せ、水素社会の実現に向けて、水素の製造・貯槽・供給・利活用等に関する議論・検討を進め、戦略を策定する予定。 水素は開発・実証試験段階であり、技術開発の動向を注視し継続して検討する。 水素・アンモニアに関する保安対策等は、国が実証試験を通して技術基準の改正などを検討していくとの情報があるので、今後も情報収集し共有していく。 企業ヒアリングで情報や可能性をお聞きした。本協議会でご紹介する。今後も情報収集や共有をし、合成燃料等の活用を探っていく方針とする。引き続きご協力願います。
	水素の調達方法等も併せて検討すべき。	
	アンモニアの保安対策など新エネルギーの取り扱いに関する情報収集・情報提供をお願いしたい。	
	合成燃料を導入する計画の有無や導入方法、研究の最新情報などについて、情報提供いただきたい。	
	水素やアンモニア以外にも、燃料の活用の可能性を、幅広く検討することが重要である。製造過程でのCO2排出にも着目しながら検討する必要がある。 水素アンモニアに固執するのではなく、合成燃料やバイオマス燃料なども含めて酒田港で何ができるのかに焦点を当てて議論するといいいのではないか。	
計画方針	シンボリックなプロジェクトを検討しておいた方が、ヒアリングのポイントがしぼれるのではないか。	シンボリックなプロジェクトにしぼってヒアリングするよう参考とさせていただいた。
	対象区域外でカーボンニュートラルの取り組みを進めている。こういった計画も含めてもいいのではないか。	区域外の取組みが、港湾利用に関連することが考えられるのであれば、計画に含めて考えられるので、情報共有などご協力願います。
	酒田港のオリジナリティを取り入れた方がいい。	再生可能エネルギーの拠点となっているという特徴を、オリジナリティの1つとして取り入れていく。本協議会での情報や意見を踏まえ、技術開発の動向・時間軸を意識したフィージビリティの高い計画を検討していく。
	酒田のオリジナリティの結果として地域振興に繋がっていくのではないか。そういう視点を踏まえて将来の目標を描きながらフィージビリティの高い計画にしていければと思う。	

第2回酒田港CNP協議会後にいただいた追加意見(要約版)と対応

区分	意見内容(要約版)	対応
協議会	トラック・重機メーカーやディーラーもメンバーやオブザーバーで入れたほうが、情報提供や共有によって視野が広がるのではないかと。	今後、協議会において必要性が高まればメンバーを検討していく。
燃料関係	軽油の合成燃料やCNLPGを本格的に取り扱う。石油からLPGへの燃料転換やLPG車の提案も行っている。石油給湯暖房からガス給湯暖房へ、ガス給湯暖房からハイブリッド給湯暖房へ、様々な低炭素の提案をしている。	企業ヒアリングで情報や可能性をお聞きした。共有可能な取組をご紹介します。今後も情報収集や共有をし、合成燃料等の様々な燃料について活用を探っていく方針とする。引き続きご協力をお願いする。
	重機などの車両のFCV化や電動化は、2030年まででどれだけ技術が発達して導入できるレベルになるのか不透明。コスト面で物流運輸を取り巻く環境は厳しい状況と捉えている。	課題を認識し、技術開発やコストの時間軸を意識し、計画への反映や表現等を調整する。
	水素で走行する燃料電池バスは高価で設備投資は難しく、実際に運行するためには補助が必要である。走行可能距離、水素ステーションまでの回送、故障時の時間と費用等、導入するにしても様々な課題を解決する必要がある。	補助について、運輸局等からの情報があれば共有していく。課題を認識し、技術開発やコストの時間軸を意識し、補助等の情報も得ながら検討していく。
計画方針	現況や課題、方向性等の意見について、総合的に反映できる内容を基本に削減や抑制方法などの具体化案をテーブルに上げて、模索することが必要とを感じる。	削減や抑制方法等の案を本協議会でお示しし、協議しながら模索していくこととする。
	コンテナターミナルとしては、山形県より電動化やハイブリッドなどの設備導入について、方向性を示してもらいたい。	コンテナターミナルについては県でも取り組む事項があると認識しており、イメージをお示しする。今後調整させていただく。
	先行してカーボンニュートラルを進めている事業者の削減計画や目標値をベースにメイクアップする方向などが良い。先行している事業者がリーディングしてもらえるとよい。	企業ヒアリングで取組み状況をお聞きした。共有可能な取組をご紹介します。